

第6回情報法制シンポジウム開催によせて—村井純氏挨拶

慶應義塾大学名誉教授

村井 純

本日の情報法制シンポジウムにて、発言の機会を与えていただき、どうもありがとうございます。プログラムの全日程にわたって、とても大切なことを政策、法制といった視点で取り組んでいただくことに敬意を表したいと思います。

本日のテーマである漫画の海賊版を中心とした議論には、私も最初から関わっております。出版社と通信事業者の両者の方々に、定期的に集まっていただきまして議論してきました。そして、これはサービス／プラットフォームという観点が必要だということで、そうした方々と、行政の方には間接的に調整をさせていただいていることは、皆さんご存じの通りです。

そこに実務家の会議があり、JILISのメンバーにも参加していただいて調整をしています。このような体制で、できることを精一杯やっという事で進めてまいりました。この領域にはすでにCODAという専門組織がありました。さらにABJという業界団体が設立され、ここでは出版と通信とサービス企業が参加し、いわば、業界全体で活動をするための組織が設立され、現在に至ります。

インターネットの世界のやはり難しいところは、インターネットはグローバルな空間であることです。その中で技術変遷があって、それを用いた運用の仕組みがある。インフラのレベルで言えば、IPのルーティング、DNSによるIPアドレスとのマッピングなどです。今回のウクライナの状況の中で、真っ先に私がいただいたメールが.ruのドメインをブロックできないかという話でした。この議論は、ICANNの方で総合的に答えていただきました。その時に私たちの中で議論として出てきたのが、今、インターネットを止めてほしいというリクエストの背景には何があるのか。全ての人がインターネットを使い、あるいは今回の戦争のようなことでも、インターネットのコミュニケーションがベースになっている。そういった議論の中で「オキシジェン」という話が出てまいりました。これは、インターネットを止めるということは、酸素を止めるということなのか。ここまで議論が出てくる。そういった時代の変遷がありまして、今や全ての人、あるいは全ての地域がインターネットを使う時代になりました。

その中で、グローバルガバナンスを担っているICANNで議論をしています。日本の総務省はICANNのGAC(ガバメント・アドバイザー・コミッティ)に参加しています。ここに私は、2つのお願いをしています。1つは各政府の担当の方がちゃんと理解できるように、GACの中でコミュニケーションしてほしい。2つ目は、今度はインターネットのコミュニティ、あるいはリソースを管理するコミュニティ、ICANN本来の使命ですね、これに対してガバメント・アドバイザー・コミッティとしてアドバイスをできるようにGAC全体で動いてほしい。この2点をお願いをしています。そして、その通りに効果的に推移してると思っています。

一方、もう1つのグローバル活動も必要です。これは標準化です。技術標準がプラットフォームの中でどうやって、標準化として受け入れられるかということですね。皆さんは、プラットフォームの独占ということを強く議論しておられますが、一方では、独占を仕掛けていると言われるプラットフォーム同士に共通するプラットフォーム技術が重要な役割を果たしています。その背景にはW3CやIETFでの技術標準が正しく機能している面があるんですね。全てのブラウザベンダーを説得して動かしていく。これは縦書きも日本語も、日本のマーケットからきちんと議論をして持って行って、国際標準を実現したという背景があります。そのためには日本からの参加が必要です。いずれにせよ、プラットフォーム、海賊版の問題、それからプライバシーの問題も大きな課題になっています。その背景に、全ての人類、全ての産業がインターネットを使っているということがある上で、議論しなければいけないという時代に来たのだと思います。特にこの2年間は、10倍の速度で進んでいるのではないかという風に思います。そういった意味で、ステークホルダーがどんどん広がっていますので、力を合わせて、政策と法政に関する議論として集約されていくということが、とても大事なことだと思います。このシンポジウムが、そのための大きなステップとなるということを確認して、私からのご挨拶とさせていただきます。